

修士論文概要

中国における高齢者の社会参加の持続可能性の条件と課題

20MD0162 王浙

研究の目的と方法

14億以上の人口規模を抱える中国は、世界一の高齢化社会に万進している。中国の第7回国勢調査のデータによる、2020年に65歳以上の人口は19,064万人で、全人口の13.50%を占める。また、国連の2019年の予測では、中国60歳以上の人口が今後30年間で倍増し、中国の高齢化率は世界平均レベルをはるかに上回るということになる。しかし一方、中国の高齢化は複雑さが呈している。高齢者のなかでは、実際には低年齢層（60～69歳）の割合が高く、1955年以降に生まれた「新老人」と呼ばれている元気な世代層は、上の世代と違う生き方を見せている。「新老人」世代は、伝統にあった中国の孝道による子供と家庭に頼るべきという縛りに縛られることなく、主体性を発揮して「サードスペース」と「趣縁」などのきっかけを活用し、多様な社会参加を実践することによって、新しい社会関係資本（ソーシャルキャピタル）を構築しようとする特徴が現れている。

実際に、中国の政府系シンクタンクの研究では、これからの10年間は、若い高齢者（つまり、新老人）の人口増加は主流で、高齢化社会の対応システムの整備にとっていいタイミングであるとの指摘があった。この中で、高齢者の社会参加のあり方が喫緊の課題として中国学者の間に研究と議論をされている。しかし、高齢者の社会参加のきっかけ、社会参加の持続可能性の条件などについては触れられていない。そこで、本研究では、高齢者の社会参加の実態を分析し、高齢者の社会参加のきっかけ、特徴と社会支援体制とのギャップを洗い出しながら、高齢者の「社会参加」を「持続可能」なものにするための条件を明らかにすることを目的とした。

本研究の研究方法は、文献調査及びフィールド調査の2つである。文献調査による分析では、中国社会科学院や日本内閣府を始めとする国家機関の高齢者現状のサーチと報告書を始め、高齢者問題に関する中国、日本、欧米の代表的な研究文献をレビューした。また、上海、成都とその周辺の地域社会の高齢者自治の事例にかかる各種報道と論文に基づき、高齢者の社会参加実践と支援制度の特徴を整理するとともに、既存の制度で満たされていないニーズを分析した。フィールド調査では、全国一の高齢化率を有する上海を主な対象として選び、そこで導入されている高齢者サポートサービスと、高齢者が展開している社会参加の活動、仕組みと中身を調査し、また、「社区」と呼ばれるコミュニティの自治活動のリーダーなどに対して、活動の中身やメンバーの参加動機などに関するインタビューを実施した。なお、コロナの影響で中国政府による厳しいゼロ感染者の管理体制下において、やむを得ずオンライン調査に変えたケースがあり、当初5か所の高齢者サポートセンターを調査する予定であったが、3か所に対して実施できた。

論文の構成

第1章 序論

- 1-1 研究の背景
- 1-2 研究の目的
- 1-3 研究の方法
- 1-4 論文の構成

第2章 高齢者の社会参加をめぐる状況

- 2-1 社会参加に関する研究
- 2-2 ライフコースの観点：高齢者の人生経験
- 2-3 活動の観点：自己組織の働き
- 2-4 リソースの観点：社会関係資本
- 2-5 役割発揮の観点：役割の理論
- 2-6 分析の枠組み

第3章 中国高齢者の現状と高齢者政策

- 3-1 高齢化社会になった要因
- 3-2 ソロ世代の増加要因
- 3-3 高齢者の人生経験
- 3-4 「養老一老人が弱者」という先入観
- 3-5 中国の高齢者政策の近年の傾向
- 3-6 まとめ

第4章 高齢者の社会参加のきっかけ

- 4-1 社区のサードスペース
- 4-2 「趣縁」で結成する新しい社会関係
- 4-3 コロナがもたらした変化
- 4-4 まとめ

第5章 高齢者の社会参加の主体性と多様性

- 5-1 民間社会の主体性
- 5-2 社区自治の参加に多様な動機づけ
- 5-3 それ以外の社会参加の動機づけ
- 5-4 まとめ

第6章 高齢者の社会参加の動機

- 6-1 社会関係資本の増強
- 6-2 社会的報酬と役割更新
- 6-3 役割更新の条件と事例
- 6-4 支援の仕組みづくりのポイント
- 6-5 まとめ

第7章 高齢者の社会参加の持続可能性の条件と課題

- 7-1 分析の振り返り
- 7-2 高齢者の社会参加のプロセス
- 7-3 高齢者の社会参加の持続可能性の条件と課題

第8章 結論と今後の課題

- 8-1 結論
- 8-2 今後の課題

論文の概要

本論文は8つの章から構成されている。

第1章は、序論として、研究の背景、研究の目的、研究の方法について述べた。

第2章では、先行研究として高齢者の社会参加をめぐる状況を整理し、高齢者の社会参加から現れた主体性と多様性の特徴と、社会参加のきっかけと動機を明らかにするため、本研究における分析の枠組みを「ライフコースの観点」、「活動の関連」、「役割発揮の観点」、「リソースの観点」から組み立てた。

第3章では、中国の高齢化社会になった経緯と高齢者の支援政策を概観しながら、「ライフコースの観点」から中国の高齢者の人生経験は1978年以降の経済発展と社会変化から受けた影響を示し、それによる高齢者の世代層の差を分析した。その中で、新老人が自分の人生経験により、時代の変化やトレンドに対して前向きで、社会参加に対する積極的な意識を持っていることを明らかにした。こうした人生経験の影響は、高齢者の社会参加の各段階において現れるものであると分析した。

また、高齢者が、それまでの人生経験によって社会参加の意思と行為は、固定するものではなく、環境とインタラクティブな活動をしている中で絶えず形成され、発展して変動する過程にあるため、高齢者政策の策定から支援者のサービス提供までは、一方的に決め付けせず、ライフコースの発展に着目して一緒に走りながら必要とされるサービスの提供を工夫することは大事ではないかと考察した。

第4章では、高齢者は社会参加の際に「同じグループの中で」安心感を持つと論じられている「活動の観点」に基づき、高齢者が社会参加のきっかけとして一番取り組みやすい「趣縁」の発生メカニズムとサードスペースの関係に注目し、高齢者の多様な社会参加のきっかけを分析した。本章は、活動展開の場所である社区（コミュニティ）という地域社会と、オンラインSNSの2つに焦点を合わせ、そこで高齢者の活動展開の背景と特徴を事例と調査によって明らかにした。社区とオンラインSNSは、サードスペースという空間として趣縁を育てられ、それがきっかけで高齢者は社会参加を地域自治の活動から仲間同士による趣味グループまで多様に展開している。また、コロナの影響でオンライン化生活が進み、逆に高齢者のIT利用率を押し上げられたため、バーチャルなサードスペースでも趣縁が広がっている。このように、新老人は社会変化やトレンドに対して敏感で、自分の生活を前向きに取り組もうとしており、決して従来にあった生活に関する固有概念や形式に甘んじることせず、チャレンジであり、それぞれのライフコースの違いによって多様な動機づけが見られ、多彩な活動ぶりを呈している様子を垣間見られた。

第5章では、「活動の観点」によるサブカルチャーグループの概念から社区の自治活動の特徴を中国の歴史に遡って地域の伝統と関連づけて分析し、さらに自治活動から現れた参加動機の多様性を明らかにした。いまま、社区という地域社会では、自己組織として活動中のグループがおり、自治活動を牽引している地元の人望者の多くは新老人であると明らかにした。本章で取り上げた嘉定区の事例と青松マラソンクラブの事例のいずれも、こうした自己組織の特徴は、内部リーダーの牽引力が活動展開の中で重要な働きをすると分析した。そして、趣縁の集まりから自己組織まで形成するには、内部の共通の目標と外部の

奉仕の機会が必要であることが事例を通して示した。

一方、同じ新老人世代でも、個々の参加動機を見ると様々で、理由はそれまでの人生経験が違ふからであると分析した。従って、高齢者の主体性の発揮は、多様な人生経験に基づくもので、社区は一つの地域社会として、高齢者の多種多様な社会参加の受け皿として機能すべきではないかと考察した。

第6章では、「社会リソース」の観点から、役割の更新の重要性と、社会関係資本と社会的報酬の意味を事例から示した。社会関係資本は、当事者間の信頼と相互の義務を意味し、個人、家族、社会、ビジネス、政治レベルで機能することはその本質であり、一方、社会関係資本の増強は重要であると先行の研究著作からまず引用して説明した。

次は、背景として、中国の経済発展によって、伝統的な社会ネットワークが崩れているなか、以前の時代に比べ、高齢者の交換できるリソースは必要とされなくなり、社会地位が下がっていることを説明し、従って、社会関係資本の増強は、高齢者にとって一種の復権活動に近い意味で、高齢者の社会参加における究極の目的になると分析した。

続いて、3つの事例を通して、高齢者が社会参加の過程における役割の更新によって、社会関係資本を増強させることで、持続的な社会参加の動機に繋がることを論じた。即ち、社会参加の過程を通して、社会関係資本の増加乃至社会報酬のリターンを実感することで、高齢者が社会参加を高く評価し、活動を継続する意欲が高まると分析した。

最後は、高齢者の持続的な社会参加の観点から、支援者として守るべきポイントも事例の分析によって示した。即ち、参加者本人の意思を尊重し、参加者に当事者意識を持ってもらうように支援する仕組みづくりに徹すことであると述べた。

第7章では、第3章から第6章までの内容を振り返り、分析の枠組みで示した、「ライフコースの観点」、「活動の観点」、「リソースの観点」、「役割発揮の観点」から、高齢者の持続可能な社会参加の条件と、支援の仕組みづくりをまとめた。支援者の立場から、高齢者の社会参加のプロセスのそれぞれの段階に応じた取り組みをしていくことが重要であると述べつつ、支援していくために、必要な1つの前提と6つの課題を整理した。つまり、高齢者の社会参加を持続可能なものとするためには、支援者にとっては、高齢者を弱者としてではなく、主体性の発揮ができる人間であるとして捉えていく「意識転換」が必要な前提条件であり、そして、「高齢者に対する多様な選択肢を提供すること」「高齢者が主体性を発揮できるような環境づくりをすること」「高齢者の役割の更新ができるような取り組みをすること」「高齢者が社会資本関係の増強によって社会的報酬のような見返りを得られること」「多様な主体による連携した取り組みをしていくこと」「状況の変化に対応し、学習しながら取り組んでいくという姿勢を持つこと」という6つの課題があることが見出された。

最後の第8章では、結論と今後の課題を示した。今後は、中国は高齢化によるプレッシャーを和らげるために退職制度にメスを入れる可能性が高く、本論文で分析した高齢者の社会参加の持続可能性の条件と課題は、高齢者の再就職など経済活動による社会参加の研究と支援にとっては参考になるだろうと考える。